

SFC 研究所所長 殿

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	Society5.0時代の学びと教育・ラボ				
ラボ代表者	氏名	鈴木 寛	所属	総合政策学部教授 政策・メディア研究科委員	
ラボ設置期間	2019年8月1日 ~ 2020年7月31日			1	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
鈴木 寛	総合政策学部・教授	代表
今村 久美	特別招聘教授	副代表
安宅 和人	環境情報学部・教授	研究担当教員
井上 英之	政策メディア研究科・特別招聘准教授	〃
井庭 崇	総合政策学部・教授	〃
今井 むつみ	環境情報学部・教授	〃
金杉 朋子	総合政策学部・非常勤講師	〃
佐久間 信哉	政策メディア研究科・特任教授	〃
田中 浩也	環境情報学部・教授	〃
東海林 祐子	政策メディア研究科・准教授	〃
中室 牧子	総合政策学部・教授	〃
夏野 剛	政策メディア研究科・特別招聘教授	〃
長谷部 葉子	環境情報学部・准教授	〃
矢作 尚久	政策メディア研究科・准教授	〃
町塚 梨恵子	研究所所員	事務局
醍醐 身奈	政策メディア研究科・院生	〃

年次活動実績報告
研究活動報告 （設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）
(Unit1) 夏から全国でマイ・プロジェクトやPBL を実践する教員むけの研究会のキックオフを行い、その後もオンラインサロン上で継続してやり取りし、11月のORFのセッションにラボ教員と共に現場で実践する教員も登壇し、社会啓発のための発信を行う。3月は連携予定のNPO 法人カタリバと共催で「全国高校生マイプロジェクトアワード」を開催する。
①ORFにおける活動成果： 2019年11月22日 ORFにて鈴木寛研究会×Society 5.0時代の学びと教育ラボの共催で「Society5.0×SDGs時代の学びと教育」をテーマにセッションを行った。登壇者には鈴木寛教授、安宅和人教授（環境情報学部教授・ヤフー株式会社 CSO）、鈴木二正先生（慶應幼稚舎教諭）また、鈴木寛研究会ゼミ生の駒津慧（AO専門塾経営）と田島颯（現ゼミ長）が参加した。 概要は、Society5.0 時代において求められる人材像・人間像が、大きく変化していくなか、新たな学びや教育の変革を現場から先導する実践者との対談によって、今後必要とされる教育の在り方について検討した。当日は、会場が満員となり、立ち見が出るほど盛況であった。 ②「全国高校生マイプロジェクトアワード」における活動成果： マイプロジェクトには、北は北海道から南は沖縄まで、全国から2900プロジェクト、9000名超の高校生が参加し、それぞれのプロジェクトの活動内容や成果について報告し合った。また、2020年3月末、『第7回 全国高校生MY PROJECT AWARD2019』全国Summitが開催されたが、今回は新型コロナウイルスの影響を受けてオンラインでの開催となった。 ③神津島「島しょサミット」における活動成果： 「島しょサミット」は、毎年7月に開催されている伊豆七島合同の高校生サミットである。毎年各島持ち回りで、開催地の高校が企画と運営を行っており、2020年は神津高校が担当となり、2019年11月段階で、その企画および運営のリードを鈴木寛研究会が請け負うことになった。半年間のPBLプログラム実施の提案を行い、企画を進めていた。しか
(Unit2) 2019 年度は準備期間として、ラボ関係者とラボの活動内容や連携する企業を検討する。関連する企業への共同研究打診も進める。
①「萩教育プロジェクト」における活動成果： 2019年秋より、山口県萩市と連携し、萩市内の高校生を対象とした探究学習のサポートを行う「萩教育プロジェクト」を進めている。2020年2月には慶大・東大等の学生が萩高校を訪問し、高校の研究成果発表会を見学したり、ポスター発表会に向けて探究学習のサポートを実施したり、交流を深めた。現在、2020年度の活動予算については、萩市の議会で通る予定である。 ②関連企業への共同研究についての活動成果： 現在、子どもの探究学習サポートや現場の教員研修に向けて、研究助成金や科研費などの申請を行ったり、教育関連企業の協賛を得るための活動を定期的に行っている。
(Unit3) 日本橋で各月で研究会を実施する。研究内容を11月のORFでのセッションで発表し、広く認知を促す。
研究会の実施と活動成果： 日本橋での定期的な研究会は継続して行っており、教員と学生、学生同士のプロジェクトの進捗状況の報告、新規プロジェクトの検討などを主な活動内容としている。ここで集約された研究成果は、2019年秋のORFにて報告を行っ

(Unit4) 外国ルーツ児童、特別支援児童のためのことば力及び思考力アセスメント開発とそのための予備調査をいくつかの県で実施する。

- ① 日本語力を単に断片的な文法・語彙知識ではなく、様々状況・文脈で運用する能力を測るアセスメントを開発中である。今年度はうごきのことば、気持ちのことば、時間・空間のことばなど7種類のアセスメントのプロトタイプをつくり、広島県福山市で小学2－4年のの本人児童を対象に調査を実施した。また、兵庫県では外国にルーツをもち、日本語支援が必要な100人あまりの子どもたち（小学2年－中学3年）にも調査を行った。日本児童の結果は集計が終了し、現在、調査協力校と福山市教育委員会に結果を報告するとともに指導のてあての提案書を作成中である。外国児童のデータは現在集計中である。
- ② 内田洋行株式会社からの委託研究により、認知科学の知見をベースに学び、教育を一般向けに紹介するワークショップABLEを2回開催した。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

【著作物】

- ・井庭 崇（著, 編集）, 鈴木 寛（著）, 岩瀬 直樹（著）, 今井むつみ（著）, 市川 力（著）(2019)『クリエイティブ・ラーニング:創造社会の学びと教育（リアリティ・プラス）（日本語）』, 慶應義塾大学出版会
- ・アンドレアス・シュライヒャー 著・経済協力開発機構（OECD）編・ベネッセコーポレーション 企画・制作
鈴木 寛 監訳・秋田 喜代美 監訳・小村 俊平 訳・平石 年弘 訳・桑原 敏典 訳・下郡 啓夫 訳・花井 渉 訳・藤原 誠之 訳・生咲 美奈子 訳・宮 美和子 訳(2019)『教育のワールドクラス 21世紀の学校システムをつくる』, 福武書店
- ・今井むつみ 著(2019) 『親子で育てることば力と思考力』, 筑摩書房

【その他】

- ・鈴木寛… 教育図書 高等学校公民教科書の執筆・監修を担当